

函館市活性化総合戦略の改訂案

1 基本目標

数値目標	区分	新	旧
渡島管内の観光入込客数 [P19]	修正	<u>1,320万人</u>	1,280万人

[改訂理由]

平成28年度観光入込客数実績が増加したことに伴い、出典元である北海道創生総合戦略が地域戦略KPIを見直したため。

(H27実績：1,092万人 → H28実績：1,259万人)

2 具体的な施策および具体的事業

(1) 新産業の創出 [P8]

新	旧
<p>●新産業の創出</p> <p>函館国際水産・海洋都市構想を進め、集積する高等教育機関等との連携による新産業の創出をめざします。特に、ITを活用し、水産業者の生活の安定や雇用の創出をめざすマリンITの推進や津軽海峡の速い潮流を利用した海洋再生可能エネルギーの調査研究などを進めます。</p> <p>[具体的事業]</p> <p>・ <u>AI、IoT、ビッグデータを活用した施策の検討・実施</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学術研究機関と漁業との連携促進事業 ・ 海洋エネルギー利用開発を中心とした新産業の創出 ・ 水産海洋研究連携推進事業 (水産海洋GIS活用事業ほか) ・ 学術研究機関等の誘致および国際水産・海洋総合研究センターの増床の検討 など 	<p>●新産業の創出</p> <p>函館国際水産・海洋都市構想を進め、集積する高等教育機関等との連携による新産業の創出をめざします。特に、ITを活用し、水産業者の生活の安定や雇用の創出をめざすマリンITの推進や津軽海峡の速い潮流を利用した海洋再生可能エネルギーの調査研究などを進めます。</p> <p>[具体的事業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学術研究機関と漁業との連携促進事業 ・ 海洋エネルギー利用開発を中心とした新産業の創出 ・ 水産海洋研究連携推進事業 (水産海洋GIS活用事業ほか) ・ 学術研究機関等の誘致および国際水産・海洋総合研究センターの増床の検討 など

[改訂理由]

平成29年度中にAI等に関する構想書を策定し、平成30年度よりAI等を活用した施策の検討および実施をしていくため。

(2) (ウ) 教育・保育の質の向上 [P11]

新	旧
<p>(ウ) 教育・保育の質の向上 市内小学校の放課後や長期休業中に児童の学習支援を行うアフタースクールを拡充し、学力の一層の向上を図るほか、発達障害等の特別な教育的支援が必要な児童生徒に対する体制の整備・充実を図るなど、さらなる教育・保育の質の向上に努めます。</p> <p><u>また、先人達が築いてきた素晴らしい函館の歴史や現在の魅力などを再発見して正しく認識し、まちに対する誇りや地域愛を醸成することで、次世代に継承する役割を担う人材を育てます。</u></p> <p>[具体的事業] ・ 函館TOM向上推進事業 ・ 放課後子ども教室推進事業 ・ 特別支援教育支援員配置事業 ・ アフタースクール事業 ・ 市立幼稚園預かり保育の拡充 ・ 社会科副読本「ふるさと函館」の特性を活かした体験活動等の充実 など</p>	<p>(ウ) 教育・保育の質の向上 市内小学校の放課後や長期休業中に児童の学習支援を行うアフタースクールを拡充し、学力の一層の向上を図るほか、発達障害等の特別な教育的支援が必要な児童生徒に対する体制の整備・充実を図るなど、さらなる教育・保育の質の向上に努めます。</p> <p>[具体的事業] ・ 放課後子ども教室推進事業 ・ 特別支援教育支援員配置事業 ・ アフタースクール事業 ・ 市立幼稚園預かり保育の拡充 ・ 社会科副読本「ふるさと函館」の特性を活かした体験活動等の充実 など</p>

[改訂理由]

平成29年度中に「函館TOM向上推進事業」映像制作検討懇話会において出された意見を取りまとめ、平成30年度から映像制作を開始するほか、主に小学校3・4学年を対象に意識啓発に取り組んでいくため。